

2012年度 第6回すばる小委員会議事録

日時：2013年2月20日（水）午前11時05分より午後2時20分（JST）

場所：国立天文台三鷹すばる棟2階会議室（ハワイ観測所、TMT本部、東大本郷、IPMU、JAXAとTV会議接続）

出席者：青木和光、秋山正幸、有本信雄、岩室史英、柏川伸成、本原顕太郎（午後1時半まで）、吉田道利（以上三鷹）

大橋永芳、高遠徳尚（ハワイ観測所からTV会議接続）

臼田知史（TMT本部からTV会議接続）

片坐宏一（JAXAからSkype接続）

嶋作一大（東大本郷からTV会議接続）

高田昌広（東大IPMUからTV会議接続）

ゲスト：ハワイ観測所 岩田生氏（所長報告の項のみ）

欠席者：田村元秀、中村文隆、深川美里

書記：吉田千枝

1 所長報告

1.1 HSCのS13B非公開について（岩田生氏）

SAC委員にはすでにメールでお伝えしてある（2/12付）通り、HSCはS13Bには公開しないことになった。HSCは2012年8月に初めて望遠鏡に搭載し、2013年1月の試験観測では視野全面にわたる画像（iバンド一色）の取得に成功し、所期の性能を達成できる見通しが立ちつつある。しかしトップユニット交換機構の故障によるエンジニアリング観測スケジュールの遅れや、カメラデューワーの真空度が環境湿度に依存する問題が見つかったこと、POpt2のケーブル巻き取り機構に故障が発生したことから、S13Bでの共同利用公開を断念し、S14A公開に向けて鋭意調整を進めることとなった。

1.2 HSCの最新の状況について（臼田委員）

ケーブル巻き取り機構の故障を含む最新のHSCの状況について、臼田委員から説明があり、質疑応答を行った。3月の試験観測はキャンセルされるが、5月の試験観測までに修復を目指す。

1.3 中国 TAP UM 参加報告（大橋委員）

中国が 4~6.5M の望遠鏡にアクセス（望遠鏡時間を購入）し始めて 3 年目に入る。中国側には 8M 級にアクセスしたいという希望があり、すばる側では東アジア共同運用という将来案もあるので、すばるに関する招待講演を行ってきた。私の印象ではまだ 8M にアクセスする下地が中国にはできていない。今後フォローアップしていくが、時間はかかりそうだ。韓国よりもワンステップ遅れている印象がある。

Q：会議で発表した中国人研究者は、海外からの帰国組か、それともずっと中国にいた人なのか？

A：よくわからないが半々ぐらいではないか？参加者は 50 人程度で、コミュニティはあまり大きくない。

Q：プログラムを見ると ngCFHT の話もあったようだが？

A：中国は UKIRT に興味があるが、運営まで担うのは難しいと思っているようだ。UKIRT 運営の面倒をみると CFHT 側が提案していたが、結果はわからない。

1.4 ソウル大 WS 報告（所長）

KASI と NAOJ の協定に基づいて去年合同 WS を開催したが、次は分野別の WS を持とうということで、2/18-19 にソウル大学で銀河考古学分野の WS 開催となった。日本からは 5 名、総勢 40 名ほどの参加だった。韓国の研究者も経験を積んでいるようだ。韓国はアーカイブデータ天文学が中心で、ソウル大学以外にもヨンセイ大学や KASI, 地方大学から何名か参加していた。議論の結果、

- 1) すばるプロポーザルの共同提案
- 2) 「すばるの学校」（データ解析講習会）の韓国開催
- 3) HSC の近傍銀河パイプラインに関する共同研究

などの案が出た。TMT・GMT のサイエンス・ケースの WS を一緒にやってはどうかという議論もあった。

Q：「すばるの学校」の韓国開催は実現可能か？

青木委員：これまで三鷹で年に 2 回開催してきたが、今年どうするかは決まっていない。春が学部生対象で 3 日間、参加者は 10 名程度。秋は大学院生対象で 4 日間、参加者は 15 名程度。大学院生の需要は減ってきており、最近は秋は応募者全員が参加できる状態だ。

議論の結果、SACも協力して「すばるの学校」の韓国開催を今年の冬（12月頃）に試行してみることにした。参加者は韓国に閉じずに台湾や中国からも応募可能とする。次回か次々回のSACで担当者を決め、韓国側との打ち合わせも含め準備を開始する。

2 HSC 戦略枠審査について

TAC 委員長：

前回のSACで、「CoIでないTAC委員+当該分野のSAC委員数名」でサイエンス審査を行いたいと話したが、その後TAC内で多くの反対意見があり、「CoIでないTAC委員+TAC委員長」でサイエンス審査を行うことになった。SACは体制の審査を担当するので、それとサイエンス審査の両方に加わる人がいるのは比重が重すぎるというのが主な反対意見だ。TAC委員長はCoIだが、ヒヤリングの進行を担当し、専門分野からの発言が必要な場合に備えるため参加し、TACが結論を出す際には退席する。サイエンス審査の方法はTACに一任されていると理解しているが、これでよいか？
またサイエンス審査は3/11を予定していたが、TAC委員の多くとPIがTV会議参加となってしまったため、3/28に延期する方向で調整中だ（後日注：サイエンス審査は3/28に決定）。

C：銀河分野のTAC委員が全て審査から抜ける形になることが問題のようだ。

TAC 委員長：はい。前回のFMOS戦略枠審査の際は、CoIが抜けても当該分野のTAC委員が残ったが、今回は残らない。TAC委員が5人審査から抜け、5人残る状態（うち一人は委員長）。SACによる体制の審査を3/19に予定していたが、それをどうするか？

SAC 委員長：後ろにずらさざるを得ない。S13Bの採択会議に間に合わせる必要がなくなったので、4月中のいつか、でどうか？サイエンス審査はTAC主導でやることになっているのでTAC委員長が説明されたやり方でよいと思う。

Q：前回の戦略枠公募の際にTAC・SAC合同でサイエンス審査を行った理由は何か？

SAC 委員長：審査員の数が足りないからだ。

C：CoIとなっているTAC委員は入らず、SAC委員を入れて議論し、採否にはTACのみ関わるという案も考えられるが。

TAC 委員長：通常の利用審査の場合も、CoIのTAC委員は採否の議論には加わらない。今回は提案の吟味の際も委員長のみ加わる。

C：例えば過去のTAC委員から協力を仰げないのか？TAC委員4人で判断するというのは人数が少ない気がする。

TAC 委員長：一次審査を依頼した有識者にヒヤリングに加わっていただくなどの案も

出たが、さまざまな案を TAC 内で検討した上でこの方法に落ち着いた。

Q：レフェリーは何人か？

TAC 委員長：9 人だ。レフェリーの PI へのコメントは事前に PI に渡して十分にヒヤリングで回答してもらおう。レフェリーが挙げた「気になる点」については事前に当該分野の TAC 委員にコメントしてもらおう予定だ。

SAC 委員長：審査を担当する 4 人の TAC 委員の負担が大きいと思うが、了解済みか？

TAC 委員長：はい。審査結果をまとめる際には、CoI でない副委員長が進行する。TAC は装置がフルスペックだと想定して判断するので、最終的には SAC で判断していただきたい。

SAC 委員長：はい、夜数についても TAC からの提言に基づいて SAC が最終判断する。

SAC の体制審査会の日程を大体決めておきたい。来年度の 4 月の SAC に合わせて行ってはどうか？仮の日程を 4/23(火)として PI とも日程調整したい。最初の一時間くらいでヒヤリングを行う。

3 FMOS 戦略枠の中間審査の日程について

SAC 委員長：PI の戸谷氏に問い合わせたところ、4 月末が都合がよいとのことだったので、4/30 か 5/1 で日程調整したい。(後日注：5/1 に決定)

4 今後の行事予定について (日時は開催地時間)

- ・ 2/25-26 PFS review (ヒロ)
- ・ 3/13-15 Keck20 周年記念行事 (コナ)
- ・ 3/27-29 ngCFHT WS (ヒロ) : 韓国・中国からの参加者と懇談の可能性
- ・ 4/12 MK 所長会議 (ワイメア)
- ・ 4/16-17 NAOJ PFS 審査会 (三鷹)
- ・ 5/7-9 CFHT UM (バンクーバー) : 所長が参加予定、すばるの将来計画の講演
- ・ 6/13-14 GLAO サイエンス WS (北大)

5 MK 望遠鏡群装置 WS について

所長：観測所サイドで計画することになっていたが、SAC と合同で進めたいので、担当者を決めてほしい。

Q：MK 所長会議で装置 WS を合同でやろうという話はあるのか？

所長：少し話に出ることはあるが、具体的にはない。

SAC 委員長：行事が目白押しの状態だ。

所長：Keck の UM は 9 月、Gemini の UM は 7 月なので、その時期を避け、すばるに
どういう装置をつけたいか？他の望遠鏡にどういう装置をつけたいかを話し会
いたい。

SAC 委員長：各望遠鏡の装置計画の紹介と棲み分けの議論になるだろう。規模はどの
程度か？

所長：20 人ほどではないか？

検討の結果、できれば 10 月～11 月に Subaru, Gemini, Keck, CFHT の装置関係者が
集まる機会を持つこととし、SAC からは委員長のほかに岩室委員、田村委員が
プログラム編成等の準備に加わることにした。

Q：MK の将来計画の方向性を出すのが真の目的なのか？

所長：MK 所長会議のテーマは「どうやって VLT に対抗するか」で、このままでは不
利だという共通認識がある。装置を共同で作れないか？という話もでる。具体的
な話はまだないが。

C：具体的な目標を決めて始めないとうまくいかない。

C：舵とりが非常に難しい。ただ集まって情報交換するのならよいが、前進するよう
もっていくのは難しい。

C：最後には MK コンソーシアムのようなものが必要になるだろう。

所長：先方の SAC にこちらから誰かが加わる等が必要になるだろう。

高遠委員：Gemini の S-TAC に一度出席した。時間交換関係の話ならできるが、それ
以上になると政治的な話で難しい。どこまでは競争で、どこからが共同なの
か？皆が活発に議論できる目標を持って WS を開催したほうがよい。

SAC 委員長：まずは時間交換を念頭に置きつつ、互いの装置について知ることから始
めるしかないだろう。最初はそれをテーマにしてはどうか？一度やっ
てみてまた考えればよい。

大橋委員：まず今度の所長会議で提案してみてはどうか？そこである程度のコンセンサ
スができてから始めたほうがよい。

所長：先方がどれくらいの規模を考えるか、提案してみる。

岩室委員：各観測所が各々 10 年後のプランを出して、それをつき合わせてみてはど
うか？今ある装置を並べるのではなく、TMT が動き出したときのプランを話
し合うのが良い。

SAC 委員長：担当委員で原案を練りながら進める。

6 学術会議報告

高田委員：先日の学術会議でどのような話が出たのか聞きたい。

岩室光赤天連委員長：

芝井氏から分科会議論のまとめを頂いた。概要は以下の通り。

学術会議は 2/15 付けで大型研究計画を公募しているが、区分 1（新規計画）と区分 2（実施・進行中の計画）に分かれる。光赤外関係では、TMT は区分 2 で、SPICA は区分 1 で提案するようにとのことだ。TMT はすでに進行中の計画として学術会議に認められた形になる。SPICA を進めるため WISH は提案しないように言われた。京大望遠鏡は 10 億円以下の計画なので、大型計画の範疇に入れなくてよいそうだ。TAO はすでに始まっており区分 1 にも区分 2 にも入らない。南極天文台は極地研と大学連合で区分 1。TMT と SPICA と南極天文台が光赤外分野の大型計画という流れになる。また、天文分科会では中規模計画に関する議論を行っているが、それを続行し、5 月～6 月始めにかけてシンポジウムをやるようだ。

7 来年度の SAC 開催日について

今年度同様、原則として第三週の火曜の開催とし、都合の悪い委員が多い場合は適宜変更することとした。10 月までの暫定開催日は下記のとおり。

4/23

5/21

6/18

7/16

9/24

10/22

**** 資料 ****

- 1 HSC の共同利用公開について（2013.2.12 付 所長メール）
- 2 HSC 戦略枠審査方針について（2013.2.15 付 TAC 委員長メール）
- 3 第 5 回すばる小委員会議事録改訂案